

MUSICA NOVA

ピアノの情報誌

ムジカノーヴァ

2004

8

特集:

ハーモニー感をも って弾くピアノ

[カラー]

アンドレアス・シュタイアー
及川浩治 vs 近藤嘉宏
中野真帆子

[現地レポート]

仙台国際音楽コンクール
中国国際ピアノ・コンクール
プラハの春国際音楽コンクール

[インタビュー]

オリ・ムストネン

Philippe Entremont

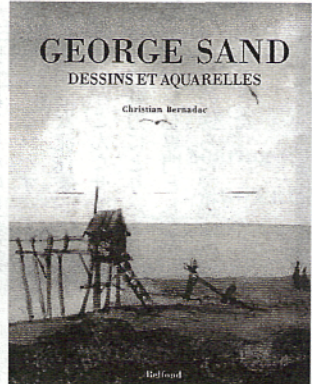


デザート、飲み物や食物の保存方法まで200種類以上の料理ノートのいずれにも、サンドが指図する声が聞こえ、その姿が見えてくるかのように思われる。

料理への工夫に労を惜しまないことをモットーとしたサンドは、菜園、果樹園、庭の花々、草木に心からの愛情を注いでいた。庭師とともに庭の隅々にまで目を届かせて、シダ類コケ類にいたるまで細心の注意を向けていたサンドは、毎日4、5時間土いじりを楽しみたいと考えていた。秋に向かう寒さの中でもアンデル川で水浴びをし、真冬でもノアンの周囲を散策し、自然を体中に感じて暮らしていた。孫オーロールはサンドから次のような言葉を贈られている。「空を見上げてごらんさい。空もあなたを見ているわ。土を大切にさい。土もあなたを大好きになってくれるから」。そんなサンドの姿に焦点を当てたのが「ジョルジュ・サンドのロマンティックな庭」で、この本では著作や書簡、日記でサンドがその名をあげて語っている200種類近い植物の中から74種類の草花を多くに取

上げています。

絵も上手だった。本を仕上げるためにペンを走らせている時のほか、孫たちの様子に目を細めているときもいつも手を動かしていた。刺繍をしている時もあったが、幼い孫たちのために絵を描いていることが多かったという。「ジョルジュ・サンドのデッサンと水彩画」にはさまざまな人物や動物たちのデッサン、ノアンから遠出した場所でのスケッチ、シヨパンやノアンに来た友人たちの肖像画などサンドの手によるたくさん作品が



クリチティン・ベルナダック編(1992)

並んでいる。

このように注目されつづけるサンドが生まれたノアンの館には生誕200年を過ぎて、そのエネルギーが残っている。決して大きくはないけれども、建物に、さらにはベンチが置かれた小道のある庭園や果樹園、菜園といったところに今もサンドが息づいている。

家の内と外での生活をサンドは見事にコーディネートしていた。ノアンの村の人々にとってサンドは遠い存在の男爵夫人ではなかった。夫と別居して恋人を替えるが、自然を大切にし村人への愛情を忘れることはなかった。そんなサンドだからこそ、シヨパンが館に来て誰も奇異な目を向けることはなかった。28歳から37歳までシヨパンの音楽家としての才能の充実はこのようなサンドの存在があったからこそということに疑問の余地はない。

シヨパンへのサンドの「功績」に報

いはあったのだろうか。

サンド自身はシヨパンとの別れで、自分が献身していたばかりだったと恨みを口にした。しかしシヨパンの傑作の作曲経緯、そして完成された作品を最初に聞けるといって「幸運」をサンド以外の誰が手にしていたのだろうか。このことこそ、さまざまな才能を与えられたサンドへ、長年の献身に対する、天からのもう一つの贈り物だったと言えるのではないだろうか。

●小坂裕子(こさか ゆうこ)

東京芸術大学音楽研究科音楽学専攻修士課程修了。聖徳大学、常葉学園短期大学講師。著書に「自立する女 ジョルジュ・サンド」(NHK出版 1998)、「シヨパン 知られざる歌曲」(集英社 2002)、「作曲家一人と作品シリーズ シヨパン」(音楽之友社 2004)。訳書にシルヴィー・ドレ・グモワ「ノアンのシヨパンとサンド」(音楽之友社 1992)、マルセル・ボーフィス「シューマンのピアノ音楽」(共訳ムジカノーヴァ 1992)、ジョルジュ・サンド「マヨルカの冬」(藤原書店 1997)、アンドレ・ブクレシュリエフ「シヨパンを解く!」(音楽之友社 1999)がある。



晩年のシヨパンを支えた別の女性——ジェニー・リンドとシヨパンの関係に新説が

●武田幸子(シヨパン研究)

2003年、シヨパンの伝記に関する「シヨパンの晩年」について、ポーランドでスウェーデン人ソプラノ歌手ジェニー・リンドの晩年について、ポーランドでも報道された話題となっている。この説を



Jenny Lind (1820~1887) スウェーデン出身のソプラノ歌手。1830年ストックホルムの王立オペラ学校に入学し、38年にオペラ・デビューを果たす。コロラトゥーラ・ソプラノとしてドイツ、オーストリア、イギリスなどヨーロッパ各地で名声を博した。スウェーデンでは国民的偶像人物として、500クローナ紙幣に肖像が使用されている



をいただいたので簡単に紹介したい。

■これまでの経緯

だった。作家アンデルセンはジェニー・リンドに片想いをし生涯独身をつらぬいたという。ジェニー・リンドは作曲家メテウルスグーンに強く惹かれ、妻子ある者への想いに長年悩み苦しみ、かなわぬ恋のまま1847年メテウルスグーンはかねてから勧められていたイギリス滞在だった。5月、ロンドンでソプラノ歌手と婚約するか破棄となり、最愛の人を失ったジェニー・リンドと出会い、お互い芸術家として才能を認めあい親交を結んだ。1848年10月ショパンはイギリス滞在中を終えパリへ戻り、ジェニー・リンドは1849年5月にシヤイヨに住むショパンを訪ねている。二人が会ったのはそれが最後だった。

ジェニー・リンドは1820年生まれで、ヨーロッパで大変な人

気をおさめたスウェーデンソプラノ歌

■新しい説

今回発表された新しい説は次の通りである。
①ショパンとジェニー・リンドは1848年から49年に恋愛関係にあり、2人の間には結婚の話まで出ていた。これがシ

いた。

ま1848年当時はイギリスに滞在していた。絶望と結婚への夢も破れ、失意のま

と婚約するか破棄となり、最愛の人を失

亡くなってしまふ。その後ソプラノ歌手

が1849年5月シヤイヨを訪れたの

はショパンと結婚するためだったが、シ

ヨパンの健康問題やパリの政情不安、コ

レラの憂鬱もあって実現には至らなかつ

た。②ショパンの死の3ヶ月前、1849年

7月に匿名の贈り主から届いた2万50

00フランの大金は、これまで考えられ

ていたジェーン・スタリングからでは

なくジェニー・リンドである。ジェー

ン・スタリングにはそのような大金を

出す経済的余裕はなく、一方ジェニー・

リンドは演奏活動で莫大な収入があった

のでまったく無理なく出せる額であつ

た。説の立証にあたっては、何か決定的

な大きな証拠が発見されたというより

も、これまでショパン研究史上知られて

いなかったジェニー・リンドが友人に

宛てた手紙や暗号的表現の解読、ショパ

ンの手紙の検証、その他ジェーンの父シ

ヨン・スタリングの手紙やジェーンの

■ショパン研究者たちの良心

たものである。

など、状況証拠を再検証した結果登場し

いのイギリス・ヴァクトリア女王の日記

経済的状况、ジェニー・リンドと知り合

いになった。ジェーン・スタリリン

グへの見方も変え

ざるを得ない。今

後の説がショパ

ンの研究史上どのよ

うな位置づけとな

るのか引き続き注

目したい。

●武田幸子(たけだ さちこ)

1986年よりヨーロッパ各地に足を運びショパンの情報・資料収集を行なっている。1999年ワルシャワの第2回ショパン国際音楽芸術会議に公式オファーパーソンとして出席。2000年ショパン・サマソンの教授来日講演会主催。2001年よりワグネル・クナ一氏のレッシェスンを毎年録音する。

ることが大変興味

ける新たな資料の検証・研究が行なわれ

ることは大変興味

ある。ショパンの人生最後の2年間に

研究者たちとの議論を継続していくそ

うな研究を行ない、ワルシャワのショパン研

究の立証にあたっては、何か決定的

な大きな証拠が発見されたというより

も、これまでショパン研究史上知られて

いなかったジェニー・リンドが友人に

宛てた手紙や暗号的表現の解読、ショパ

ンの手紙の検証、その他ジェーンの父シ

ヨン・スタリングの手紙やジェーンの

手紙の検証、その他ジェーンの父シ

ヨパンの健康問題やパリの政情不安、コ